

大和村防災マップ

大和村 大和地区

我家の避難場所

津波のしくみ

津波の発生

地震による海底変動が原因で発生する津波。津波は、海が深いほど早く伝わる性質があり、沖合ではジェット機に匹敵する速さで伝わります。津波は、海が浅くなるほど速度がおそくなるため、津波が陸地に近づくにつれ、波から来る波の前の波に追いつき、波高が高くなります。

津波の速さ

津波の速さは、水深によって変わります。水深が深いほど速く、水深が浅くなるほど遅くなります。津波は、海が浅くなるほど速度がおそくなるため、津波が陸地に近づくにつれ、波から来る波の前の波に追いつき、波高が高くなります。

津波の遡上高

「津波の高さ」とは津波がない場合の水位（平常水位）から、津波によって海面が上昇した時の高さのことをいいます。さらに、海岸から内陸へ津波が、かけ上がる高さ（「遡上高」とも呼ぶ）と併せて、高い場合には3〜4倍程度までなることが知られています。

津波の心得

津波情報に注意する

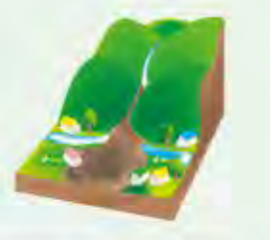
津波が発生したら、テレビやラジオ等と併せて津波情報に入手することが大切です。津波の遡上高が異なる場合があります。

安全な場所に避難する

津波情報の発表や強い揺れを感じた場合は、速やかに高台に避難しましょう。また、津波は第1波より第2波、第3波の方が高くなることもあり、情報、注意解除までは気をゆるめないようにしましょう。

土石流危険渓流

- 渓流の勾配が急である。
- 渓流に大きな石がごろごろしている。
- たくさんの土砂が堆積している。
- 上流が山崩れなどで荒れている。
- 過去に土石流があった。



地すべり危険箇所

- 過去に地すべりがあったところで、今も少しずつ動いている。
- わき水や地下水が豊富である。
- 断層があるところやもろく崩れやすい岩石がある。
- 火山作用あるいは温泉の作用で粘土化した土がある。



急傾斜地崩壊危険箇所

- 山の傾斜に亀裂やわき水がある。
- 岩石がもろく崩れやすい地質である。
- 過去に山崩れがあった。
- 山崩れがあった場所に隣り合っている。
- 急斜面で、軟弱な地盤がある。
- 水の集まりやすい斜面地形である。
- とまどき落石がある。



土砂災害危険箇所・危険区域図

土砂災害の発生時には、こんな現象が起こることもあります。

- 山崩れがする
- 崖が崩れ落ちて、道路が遮断される
- 川の流れが滞り、洪水が溢れ始める
- 川原から水が噴き出す
- 谷や井戸の水が濁る
- 道路がひび割れ始める
- 山石がバラバラ落ちてくる

○いざという時のために、覚えておきましょう。

1時間に20ミリ以上、または100ミリ以上の雨が降ると、土砂は速度が速いため、日頃から家族全員で避難開始してから100ミリの降土砂の流れる方向に対して場所や避難する道順を決め、雨量になったら注意が必要で、直角に逃げるようにしましょう。ておきましょう。

避難時の心得

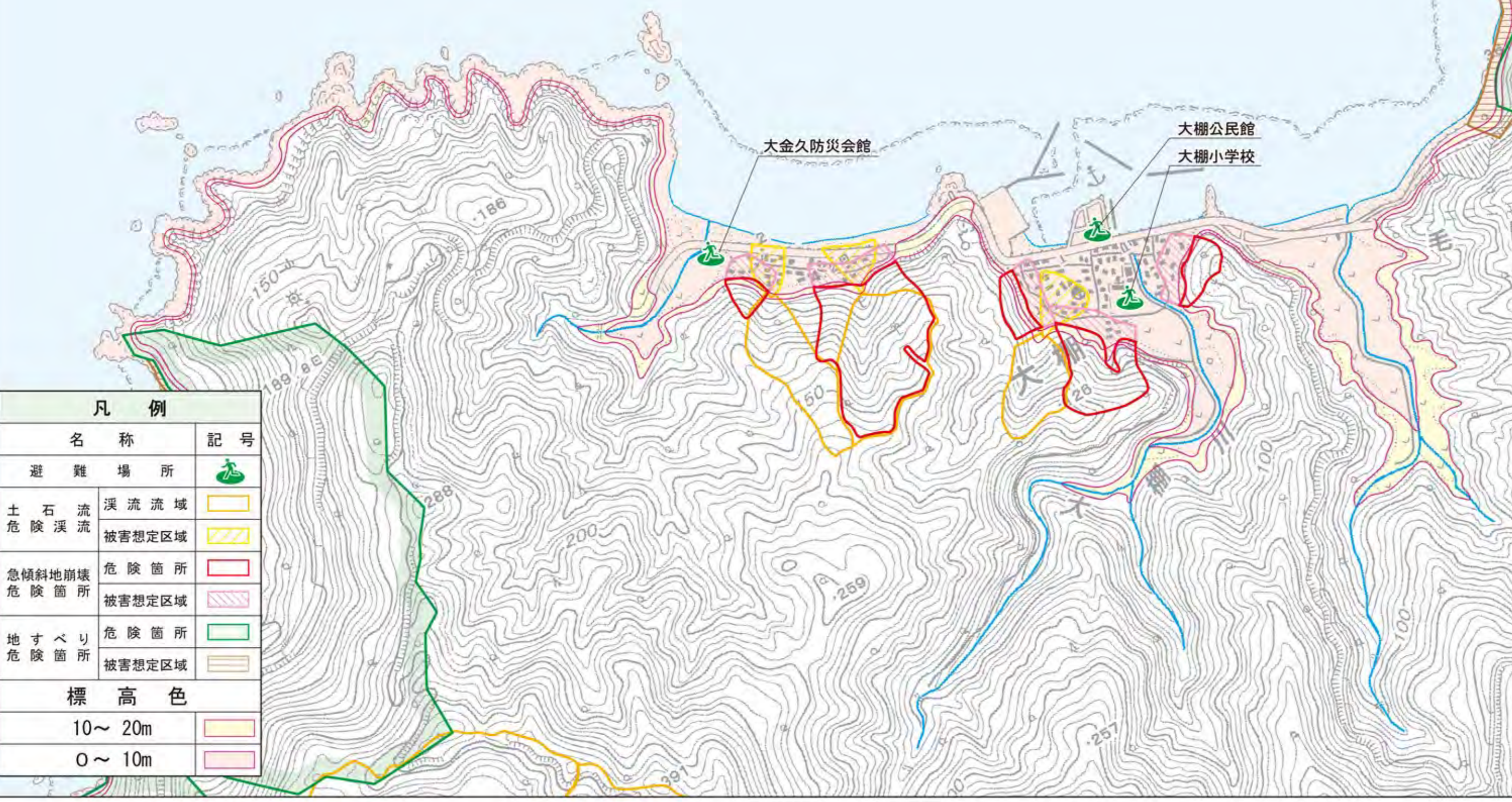
- ラジオ、テレビで最新の気象情報、洪水情報を入りましょう。
- お年寄りや子供は、早めに避難が必要です。
- 避難する時の荷物は必要最小限(非常食、飲料水、懐中電灯、携帯ラジオなど)にし、2人以上の避難を心掛けましょう。
- 徒歩での避難を心掛けましょう。車を使つての避難には、危険を伴うことがあります。
- 避難する時は、まず水の浸からない道路へ速やかに移動しましょう。
- 洪水による水の流れが、場所によっては相当速いことが予想されます。避難時には、水の流れの速さにも十分注意しましょう。
- 村役場などからの避難の呼びかけがなくても、各人が洪水や崖崩れなどの危険を感じた場合には、自主的に避難しましょう。

◎デマにまどわされない!!

災害時は、デマなどに惑わされやすくなります。報道機関や区市町村、消防・警察などから情報を注意しましょう。

◎山崩れ・崖くずれ・津波にも注意!!

山崩れ・崖くずれ・津波が発生しそうな地域では、すばやく避難しましょう。



| 凡例 | |
|------------|--------|
| 名称 | 記号 |
| 避難場所 | |
| 土石流危険渓流 | 渓流域 |
| | 被害想定区域 |
| 急傾斜地崩壊危険箇所 | 危険箇所 |
| | 被害想定区域 |
| 地すべり危険箇所 | 危険箇所 |
| | 被害想定区域 |
| 標高色 | |
| 10~20m | |
| 0~10m | |